

Ochiai News

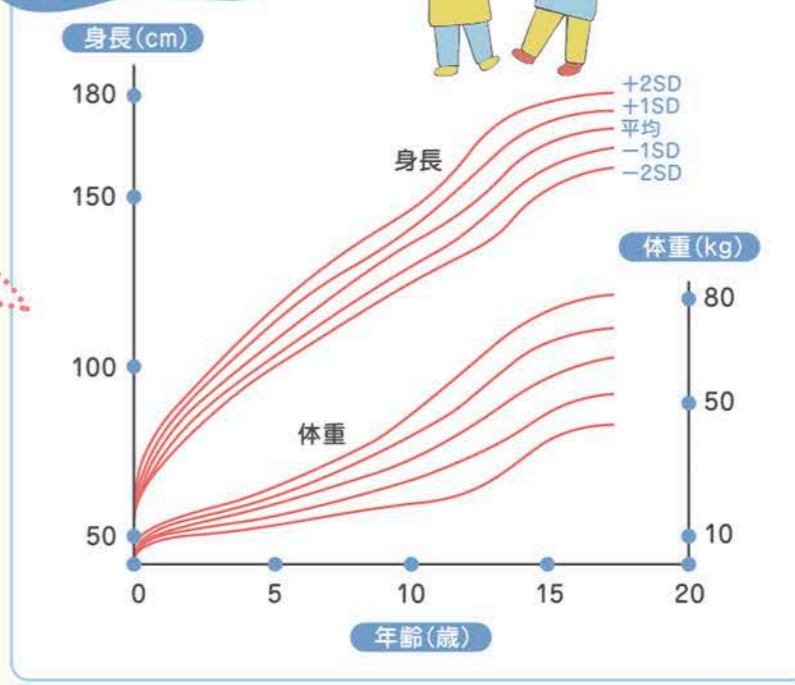
学校健診と成長曲線のお話

少し前まで健康診断では必ず身長、体重に加えて「座高」を測定していました。しかし、2014年に公布された「学校保健安全法施行規則の一部改正等について」で必要項目から削除され、現在では測定されることが無くなりました。その代わりに推奨されるようになったのが「**成長曲線・肥満度曲線の積極的な活用**」です。

成長曲線の活用

成長曲線は性別・年齢別に、身長・体重の平均値や、ばらつき幅を示した曲線で、肥満度曲線は標準体重に対して実測体重が何%上回っているかを表す「肥満度」をグラフで示した曲線です。学校健診では専用のソフトを使って成長曲線、肥満度曲線を作成することができ、さらに左記の9つの異常が検出できるようになっています。

成長曲線(男子)のイメージ



このような異常を検出

- ① 高身長(97パーセンタイル以上)
- ② 急に身長が伸びている場合
- ③ 低身長(3パーセンタイル以下)
- ④ 身長の伸び方が悪い場合
- ⑤ 低身長の中でも極端な低身長(-2.5Zスコア以下)
- ⑥ 肥満度20%以上の肥満
- ⑦ 進行性の肥満
- ⑧ 肥満度-20%以下のやせ
- ⑨ 進行性のやせ



成長で気になることがあれば相談を

こどもの成長は非常に多様性があります。それぞれの個性として捉えて良い場合がほとんどですが、中には病的な疾患が隠れている場合があります。学校健診で成長の異常を指摘された場合はお気軽に小児科にご相談ください。また、気になることがあれば、自分で成長曲線を書いてみるのも良いかもしれません。成長曲線は小児内分泌学会のホームページで簡単にダウンロードもできるので、ぜひご自宅でお子さんの成長曲線を作成し身長、体重の推移を確認してみてください。



小児科
ふたがわ なつこ
二川 奈都子 医師

小児内分泌学会ホームページ (<http://jspe.umin.jp/public/teisinchou.html>)

成長曲線・肥満度曲線で分かること

一人ひとりの成長の特性が分かる他に、時には下記のような異常を検出して病的な状態であることを伝えてくれます。

神経性やせ症

どんなに痩せていても自分は太っているという認知から抜け出せず、**極端なダイエット**を続け、**体重減少が止まらない状態**を神経性やせ症と言います。体重曲線や肥満度曲線で短期間に急激な体重減少がある場合に指摘されて発覚する場合があります。**異常なやせは命に係わることもある**ため早期の医療機関受診が必要です。

思春期早発症

通常、女兒は10歳、男児は12歳頃から思春期(二次性徴)が始まりますが、**二次性徴が他の人より2年以上早く来てしまうこと**を「思春期早発症」と言います。成長曲線上、急激な身長の伸びがある場合注意が必要です。最も多いのは**卵巢・精巣に命令を送る視床下部・下垂体**と呼ばれる場所が早く活動する「**中枢性思春期早発症**」です。女兒は特発性のことが多いですが、男児の場合は**腫瘍等の器質的な疾患**が隠れている場合があります。

低身長、成長障害

身長が極端に低い場合や、**明らかな低身長ではないものの、病的に身長の伸びが悪い場合**、学校健診で指摘されます。特に急に身長の伸びが悪くなった場合、頭の腫瘍などが原因のことがあります。頭痛や見方の異常、視力低下、著明に尿量が増えて、**水分摂取が非常に多い状態(多飲多尿)などの症状を伴う場合は特に注意が必要です。**

4月からの診療変更のお知らせ

心臓血管外科 山根 尚貴 医師 毎月第1・3・5月曜日 午後 担当医の交替 種本 和雄 医師 (川崎医科大学附属病院) 柚木 靖弘 医師 (川崎医科大学附属病院)	皮膚科 毎週火曜日 横山 恵美 医師 徳田 真優 医師 岡野 真理 医師 (岡山大学病院)	眼科 担当医 南川 駿 医師 三野 麻以 医師 (岡山大学病院)	循環器内科 担当医 東儀 浄孝 医師 毎週水曜日 森川 喬生 医師 (神原病院)	内科 常勤医 藤井 健人 医師 退職 今村 竜太 医師 明石 耕生 医師
---	--	--	---	--

